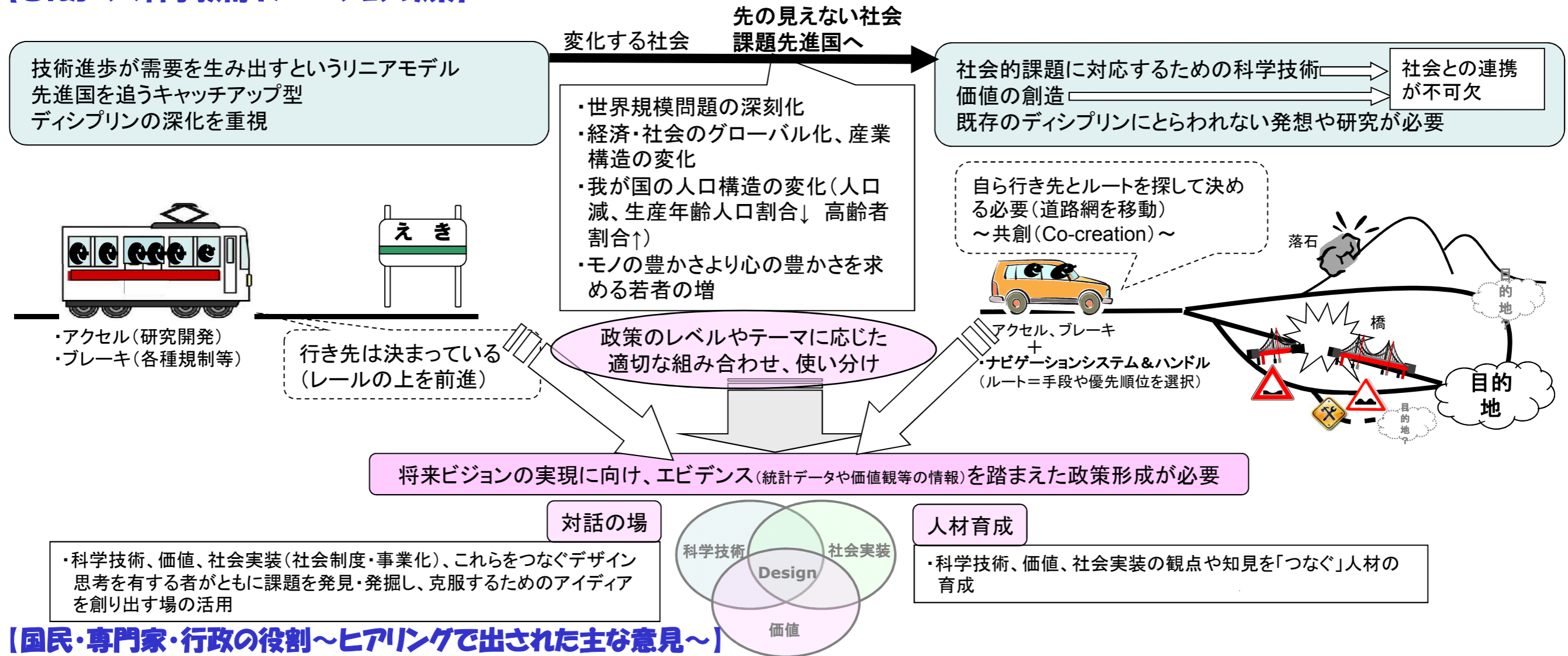


社会の要請に応える科学技術イノベーション政策の推進に向けた議論のまとめ(案)

資料 2-3-1
科学技術・学術審議会
基本計画推進委員会
(第7回) H24.11.30

【これからの科学技術イノベーション政策】



【国民・専門家・行政の役割~ヒアリングで出された主な意見~】

- ・科学技術理解増進(一方向コミュニケーション)→共通認識の醸成(双方向コミュニケーション)→社会とともに創り進める(対話)
 - ・相互の信用、信任に基づく政策形成
 - 対話の充実と継続:エビデンスを踏まえた議論;テーマや相手の特性、科学技術の不確実性に合わせた最適な手法や手段の選択;多様な取組(社会的試行等)の実施と手法の改善
 - 政策形成過程への取組:
 - (1)国民、専門家、行政の対話等を通じた「社会的課題」把握、同定;将来ビジョンの共有
 - (2)エビデンスを踏まえた政策の選択肢の形成(課題に対応する科学技術に立脚する政策手段のみならず、①社会制度や事業化に向けての課題、②リスク評価、③国民のQOL(生活の質)への影響、④費用対効果などを加味した複数の選択肢);倫理的・法的・社会的問題等を踏まえて政策を選択する仕組み 等)
 - (3)政策決定、そのための情報公開については多様な意見がある(対話の結果に基づいて政策を決定すべき/対話の結果を「踏まえて」信任を受けた政治や行政が決定すべき/信任の下で政治や行政が決めるべき;(政策形成等に係る)情報は全て公開すべき/戦略的に判断すべき)
 科学技術政策全体のポートフォリオ、科学技術のリスクとベネフィットのバランス、複数のリスク間のトレードオフ、「個人の価値」と「社会全体の価値」等を総合的に捉え、価値判断を行うべき
- そのために次のことも併せて進める必要
- 国民の科学技術リテラシー(科学技術の不確実性や限界の存在、リスクに関するリテラシーなどを含む)や専門家の社会リテラシーの向上に向けた取組、行政の政策立案・決定プロセスの透明性の確保、エビデンスの基盤の蓄積と研究の推進 等

【まとめ】

- ①将来ビジョンの実現に向け、エビデンスを踏まえて政策の選択肢を形成することが重要
- ②異なる世代や立場の者がともに議論を行える場の活用と、人材育成が重要
- ③対話について多様な取組を通じて、手法の蓄積・改善(失敗も経験)が重要



- ・各分科会等において、これらの点に留意した議論を期待
- ・今後も継続して議論し続けていくことが必要